

6/6 (日) 13:30~15:30

## シンポジウム

# 「オンライン・コミュニケーションの時代を どう乗り越えるのか？」

昨年来からのコロナ感染症防止対策で、人が集まること、対面でのやりとりが難しくなっています。そんな中、臨床、組織、カウンセリング、教育の各分野でご活躍の先生方にご登壇頂き、テーマに沿ったご提言をいただきます。短い時間ではありますが、ご参加の皆様には新たな学び、視点を手に入れて頂き、職場に、日常にご活用いただけることを願っています。

シンポジウム進行担当：安部朋子

## パネリストのご紹介

➤ **丸山陽子氏** 動作法ラボ M、児童発達支援センターふじ学園、臨床心理・公認心理師

育児支援としてのお母さんの勉強会「マザーゼミ（商標登録済み）」の開発・運営、自閉症児のプレイセラピー、事務運営に関わる。

2020 年に動作法ラボ M を開設。臨床動作法研究活動としては「マザーゼミ」の効果や動作法の事例研究・ストレスマネジメント教育の効果についてと「幼児動作法」として発達障がいを持つ子どもへの動作法についての研究及び、保育者が安全に行える動作法を研究している。

**要旨：「オンラインでの臨床動作法の研修ー臨床動作法の発展へ向けて」についてご提言。  
動作法を口頭で説明するととても大変なので、映像提供で説明をします。**

➤ **豊田直子氏** (株)ホリスティックコミュニケーション代表取締役、臨床心理士、公認心理師、  
CTA (教育・組織)

2008 年 4 月 (株)ホリスティックコミュニケーション設立。

2011 年～独立行政法人労働者健康福祉機構 奈良産業保健総合支援センターメンタルヘルス相談員&促進員として活動。

現在、企業に対するメンタルヘルストータルコンサルティングの実施。オリジナルなストレス調査を実施し、集団分析から組織開発を提案。臨床心理士としての高い専門性と産業現場の事例に満ちた研修で「わかる」から「使える」ようになるヒューマンスキル研修を展開。マイクロカウンセリング技法及びTA心理療法による短期療法が得意。

**要旨：**

「コロナ禍において、在宅勤務が増加することでメンタルヘルスが低下する人が増えています。在宅することでの低下、在宅できないことでの低下の両方があります。企業としては、どちらに対しても、ある程度のフォローしかできません。CTA-O として、そんな状況に TA 心理学を使いながら介入している事例をお伝えします」

➤ **西澤寿樹氏** (株)はあと・くりにつく代表取締役、臨床心理士、公認心理師、CTA(心理療法)

日本には珍しい MBA と臨床心理学のダブルマスター。大学商学部在学中に TA に出会って衝撃を受け、紆余曲折を経て臨床家になる。現在は、@はあと・くりにつく/BetterCouple で健康な個人がよりよく生きるためのカウンセリング、夫婦のカウンセリングを中心に行っている。AERA.dot でエッセイを連載中。

**要旨：**

コミュニケーションの手段(大きく分ければ、直接会うのか、メールや電話、Zoomなどの直接でない手段を使うのか)の性質と、それを利用して行われるコミュニケーションがどう進展しやすいかには関係がある。それを、臨床事例およびTA的観点で考察する。

➤ **星野恵子氏** (株)マンズ・リソース代表取締役 人材育成研修講師 PTSTA (教育)

TA 講座の他、企業団体等で人材育成研修を担当し、TA を背景にしながら訓練を組み立てています。対面の研修でリアルに動くことは効果的ですが、現状では病院・福祉施設・家を出られない方にはオンラインが研修受講のチャンスとなります。今回はそれらについてご一緒に考える時間になると嬉しいです。

**要旨：「教育領域(成人教育)のオンライン活用事例を通じ、難しさとその工夫を探ります」**